



男子生徒のこと

話せない男子

私がこれまで専門アドバイザーとして関わってきた生徒についての印象ですが、男子の方が多いです。女子に対して倍くらいです。そして、女子は困りごとを具体的にわかっていてその上で言葉を使って説明ができる事が多いように思います。発達障害があっても、その困り感を説明できて自分が納得できるまで話そうとします。一方男子は、「先生に言われて来ました」という感じで自分に困り感がなく、相談が長続きしない事が多いです。また困り感があっても言葉で自分の困っている様子を説明できない生徒が多いという印象があります。そして、男子の相談は本人ではなく、保護者（母親）との相談も女子と比較して多いのです。あくまで印象なのですが、何が言いたいかと言うと、「男子は自分の感情に無頓着で、気持ちを言葉で説明するのが苦手」ということです。



男性の自殺と有害な男らしさ

日本では男性の自殺は女性と比較するとほぼ2.3倍です。コロナ禍で女性の自殺が増えたと言っても男性の方が圧倒的に多いようです。私は、この自殺の要因と男子の自分の気持ちに対する無頓着さや言葉での説明の苦手さは関係しているように思えます。「男の子は小さな頃から『男らしさ』を良しとする価値観をインストールされた結果、競争の勝ち負けの結果でしか自分を肯定できなかつたり、女性に対して『上』のポジションにいることにこだわりすぎて対等な関係性を築くことに失敗してしまつたり、自分の中の不安や弱さを否定して心身の限界を超えて仕事に打ち込んでしまつたり・・・といったことが、男性にしばしば起きているのではないか。」と太田啓子が著書『これからの男の子たちへ』の中で言っています。このことを太田さんは「有害な男らしさ」とよんでいます。男の子は、小さな頃から「男の子は泣かないの」と言い聞かされ、「小さいことで男はくよくよししない」と言われ、泣きたい気持ちやくよくよした気持ちに蓋をして、自分の気持ちを言語化する機会をなくしているのです。そうすると、自分の感情に無頓着になった方が楽なのです。また、自分の気持ちに気づいたとしても、勝ち負けにこだわり、「助けて」と言うのは「負け」と考えてしまい、「助けて」が言えぬまま、がんばり続け、限界を超えてしまうのです。「助けて」と援助を求めることができる力のことを「援助希求力」と言います。男子だって「泣いていい」「『助けて』を言ってもいい」のです。困ったことを相談してきたら「よく相談できたね」とまずは褒めてあげましょう。



身の回りの事 しない、させない

また、ADHD 傾向のある生徒は男女にかかわらず持ち物の管理が苦手な生徒が多いのですが、ファイルやプリント等の持ち物の管理ができないのは圧倒的に男子が多いのです。これも「有害な男らしさ」が原因にあると思うのです。衣食住等生活に関わる身の回りの事を男子は免除されていることが多く、子どものうちは母、結婚すればパートナーである妻に任せている、もしくはそれらの女性が男子にさせていないのです。持ち物の管理等を含む身の回りの事と女性はセットで「男性より下」と考えられているため、様々な場面でトラブルの元となっています。学校では、プリントやファイルの管理ができていないために、定期テストの勉強の時にプリント集めから始めなくてはならないのです。プリントがなければテスト勉強に支障が出て、提出物も出せず、成績に影響が出ます。そのくせ、成績が下がるととても気にするのが男子です。勝ち負けにこだわるので、成績が下がったり、進路の事が不安になったりすると一気に自己肯定感が下がります。自殺統計原票に記録された 30 万人について、人工知能での解析をした結果、10 代で、成績や進路の悩みを抱えていた人たちは、中学 3 年生と高校 2、3 年生が多く、男子が 7 割を占めるそうです。また、結婚してからの家事、育児の場面でもそうです。「ワンオペ育児」という言葉を耳にしますが、ここでも家事、育児の男性の不参加が問題となっています。



男性だけの問題 ではない



しょうが
ないよね

これは、男性の問題でしょうか。女性の、母の、大人の女性の問題でもあります。男性も、女性も「有害な男らしさ」が存在することを意識し、「男の子だからしょうがないよね」で済ませないことが大切です。プリントの管理や提出物、時間、食べ物、着る物等身の回りの事は男でも女でも自分でやる、できる。このことが、生きていく上で、自立する上で大切なのではないかと思います。「自分は違う」という男性もいらっしゃいます。もちろんそうでない方がいるのは当然です。でも、まずは「自分の事は自分です」「『助けて』が言える」このことが男子を「有害な男らしさ」から解放し、男子も女子も健全な大人に育っていくのに大切なことなのです。

【参考】太田啓子『これからの男の子たちへ～「男らしさ」から自由になるレッスン～』大月書店
NHK スペシャル『若者たちに死を選ばせない』
(<https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLP3/blog/bl/pneAjJR3gn/bp/p9Dr8M0ml6/>)

私も男子の子育てを経験していますが、つついやってあげてしまつて「はっ」としています。崖の上から子どもを突き落とす母ライオンの気持ち(気持ちですよ)が必要です。また、子どもの前では「手本となる大人」として、男性の先生、お父さん、がんばってください。